



役場 事務所 印刷 株式会社  
発行所 東村印刷株式会社  
発行者 東村印刷株式会社  
印刷所 東村印刷株式会社  
発行所 東村印刷株式会社

### 一、副業について

案じていました稲作も天の恵みでぐあいよくすすみ今年も豊作はまがらないようすになりました。心から楽な気持ちになりました。おめでとうございます。

豊作といえは、全国的に五年つづきの豊作で、農村の生活文化は高まったといわれますが、本村もお他聞にもれず、田圃は四角になり、水道ガスは普及して、面目一新しました。

然し聞くところによると、世界の文明国の中で、日本ほど農村と都市との経済文化の差の大きいところはないとのことであります。考えてみますとどこにふしむる土地に建てられている自分の家に住みながら、他人の土地他人の家に住みしかも独立の経営もせず他人に生活程度が高いとまことに奇異の感じがしますが、よくよく考えると、都市の生産力が増え、農村の生産力より大であるため、個人所得も都市の勤労者の方が多いためにはなるのであります。田は四角になり、道路は広くなって、機械の使用に都合がよくなくなったこと、時代の流れで本村の

機械化は想テンポに進んできました。そのため生産に要する経費が多くなるようになってきました。その上国民全体の生活水準の向上にともない、村内の生活水準も当然高くなってきました。ごらんなき、水道にガスにそして魚屋は毎日数人が村に入りこんでくる。菓子果実の店がならび、八百屋が商売になるという現状はどうしても増産による収入増をもってしては補いきれない実情であります。

このことは本村だけの問題でなく、全国共通の姿であります。ただ本村の耕地整理事業がそれにつかたつたため、一層甚だしいだけあります。

そこで、農業は「曲り角」にきたといわれ、これを打開するには「農業の共同化」、「農業の企業化」にありと叫ばれてきました。一方米専業ではとても経済がたちら行かぬこと、都市の商工業の好景気による求人増加に伴って、都市近郊の農家はどしどし兼業農家になりつつあります。そのため中小都市はもろろん農村ですら工場誘致に狂奔するに至り、そのうち少数の成功を見た外は却つて

そのための失費のため幾多の詰りを提供しておけることは御承知の通りであります。

この傾向のため都市近郊はもとより、近郊ならぬ農村から二、三男の都市進出は当然であります。最近では相続人が都市へ出て都市で世帯を持つ傾向が多くなつてきました。民主主義的の戸籍法の改正やら、新旧思想の不一致やら、結婚問題やらがその原因であるらしいのですが、とにかく一農村は変わりつつある」と認めざるを得ません。

村としましては、この大きな「時の流れ」に順応した対策を練るべくいろいろと研究してきてきました。村内の三農協組合並に曾根の普及員各位と協議を重ね、時季の問題と勧誘して、今回第一次として次の三項を発表し直ちに実行の運動を起すことになりました。

#### 一、マツシールムの栽培

#### 二、毒の栽培

#### 三、養鶏

その選定に当りましては、第一に米の生産に害を与えないこと、第二に生産物が負担先を確保することを目指しました。その詳細は説明会場でいたしますが、決して御心配無用でございます。

然しその実施に当りましてはどうか守ってやらねばならぬこと、これは販売するためには生産物は商品であります故生産物は第一に規格に合わねばならず、第二には一定量必ず出荷せねばならず、第三に集荷時間をきつと守らねばならぬことあります。従って、これを実行するためには、組合を作って共同作業によらねばならず

且つ組合の規約には断じて従わねばならず、栽培法も凡て組合の指導のもとで実行せねばなりません。それによって一定の期日と一定の時間と、揃った一定の数量が集まらねばなりません。

従つてこれの成功すすためには決して安易の気持ちでは出来ないことと初めより覚悟をきめていたかねばなりません。品種から肥料から、種え付けの期日まで一切指示に従つて、決して自己流を許されません。凡て新しい仕事に入り、それを成功させるための苦勞を惜しんではなりません。どうぞ私達を信じ、出来る組合を信じていただきますようございます。

マツシールムは去七月廿六日役場で説明会を開き、八月五日午後一時より役場で組合結成の打合せを開く予定になっております。故、よくよく御考の上多数の御参加を希望いたします。

毎は二手作をねらいました。表作の「なたね」「麦」ではとてもまとまった収入が見られませんが、取り上げました。八月二日午後一時から役場で説明会を開きます。故多数御集り下さい。

養鶏は田が四角になったため、労働力が余つてきましたので取り上げました。然し、今までのやり方ではとても収入という、新しいやり方でもそれと十羽や二十羽ではとてもだめで、本格的にとりこんでいただき、若い人は「のらへ」年寄り子供は鶏へと一家みんな働こうとした、それにとりかねが現金収入を得る、よくながります。その説明会は何れお知らせいたします。

### 京都大学社会学教室 茨島調査

去る七月十日から十七日まで京都大学文学部社会学科の白井主任教授さんを初め左記の方々を御来村になり茨島部落に合宿して、同部落の明治より太正を経て今日に至るまでの村民の生活の移り変りにつき親しく、且つ科学的に、詳しく御調査して頂きました。

京都大学教授 白井 二尚  
奈良学芸大学 寺川末次郎  
全 講師 村井 研治  
三重大学助教授 松田 信  
京都工芸繊維大学助教授 豊島 資城  
京都府立大学助教授 長谷川昭彦  
京都大学助手 高島 昌一  
京都大学大学院学生 山口素光  
以上 八名

この調査は新潟県の平場地帯の代表的のものとして、選ばれたもので、村としましては、村史の重要な部分を提供していただけるわけで大いに期待しております。

尚茨島の区長さん初め役員各位の御労苦に対しあつく御礼申し上げますと共に宿舎としておめんどろを頂きました笠原、大原、田村、長沼の各位に深甚なる御礼を申し上げます。

尚白井先生は御講演とスライド(先生の撮影されたもの)を御見せ頂きましたし、同行の米入フルブツンエ氏は鴻東中学校並に漆山中学校で英語の授業として御指導頂きました。

御一行に対し深く謝意を表します。(樋口)



# 国勢調査と人口について

今年に国勢調査の年で、十月一日には全国一斉に国勢調査が行なわれることになっています。

今回はこの国勢調査の歴史とか、日本の人口はどうなるか等について記述してみよう。

この国勢調査は第一回調査を大正九年に実施し、以後十年目ごとに大規模調査を、その中間五年目にあたる年に簡易な方法による調査を行なってきました。今年行なわれる「昭和三十五年国勢調査」は十年目ごとの大規模調査であり

第一回調査は大正九年に行なわれたわけですが、これよりさき明治十二年に、国勢調査の試験調査ともいいうべき「甲斐國現在人別調」が、明治三十五年には「国勢調査ニ関スル法律」が公布されました。

そのとき、第一回の国勢調査は明治三十八年に実施されることになつていたのですが、日露戦争などのため、ついに実施の運びにいたらず、大正九年まで持ち越されることとなりました。この第一回調査には種々笑ひ話があります。

いづれの統計調査でもそうですが、国勢調査においても十月一日午前零時現在という調査時点があります。そこである県のある所の調査区では調査員が午前零時に訪れるのと、車で各世帯が深夜にランプを灯もして調査員のを待ちうけていた。しかし最初の調査でありスムーズに調査事務が進まず

とうとう朝になつても調査員が来なかつたということ。これは午前零時現在で調査するということとの聞き誤りから生じた笑ひ話ですが、これはほんの一例ですが、第一回の調査にはこの様な笑ひ話や笑いだけですませられない事が多かつたといふこと。そのようになつたとか大正九年(一九二〇年)の第一回国勢調査は大規模として終了し以後十年ごとに、すなわち、昭和五年、昭和十五年、昭和二十五年に大規模調査が実施されて来ましたが、したがって四十二年の最後の数字が〇の年には大規模調査が実施されるということができま

す。また大規模調査が行なわれた年の中間五年目にあたる年には簡易な方法による国勢調査が行なわれて来ましたが、すなわち、戦前では、大正十四年、昭和十年の二回。戦後は昭和二十年がその年にあたつていただけですが、終戦の年でも実施されず、昭和二十二年に臨時国勢調査を、ついで昭和三十年に簡易調査を実施して来ま

した。なお、簡易調査といつても、国内の全人口を、れや重複なしに調査するという手続の上では大規模調査と何ら変わりなく、ただ簡易調査で少なくつてゐるという調査事項が少なくつてゐるという相違があるだけです。

また国勢調査ではないが昭和十九年(二月二十二日)、昭和二十年(十一月二日)および昭和二十一年(四月二十六日)には、それぞれ

人口調査が、また昭和二十三年には、常住人口調査が、いずれも国勢調査とほぼ同じ規模で行なわれて参りました。

参考までに湯東村の国勢調査人口を掲げてみますと次の表の通りであります。

大正九年	六、四五五人
昭和十四年	六、四三七人
昭和十五年	六、四八三人
昭和二十年	六、五九四人
昭和二十五年	六、八六五人
昭和二十九年	七、六九〇人
昭和三十年	七、七七八人
昭和三十一年	七、八七一人

この表が示めていて、調査年ごとに大正十四年を除いて調査年ごとに人口は増加して居ります。

皆さんは日本の人口はどれ程増加しているか存じでしょうか。

昨年一年間に出生は一六〇万人、死亡は七〇万人で、九十万万人増加しています。これを一日に換算しますと、四、四〇〇人生まれ、一、九〇〇人死亡して、毎日二、五〇〇人増加している計算になります。

男女の比率は出生するときは女一〇〇人に対し、男一〇五、七人で男が多いのですが、年齢が高くなるに従つて男の比率がさがり二十才では、男女の数がほぼ等しく、二十才以上では女が多くなつています。全体では女一〇〇人について男九六、六人の割合です。

また平均寿命は男六四、九八才、女は六九、五二才で戦前(昭和十一年)の男四十七才、女五十才にくらべ著しく延びています。しかも男女合せて八十才以上が五十一万人というわけで医学の進歩等による平均寿命の延びはう

れしい限りであります。

寿命が延びて来たのはおわかりになつたと思いますが、出生の方はどうなつて居るでしょうか。

この村でも年々減少して次の表の通りです。

昭和三十年	二四三人
昭和三十一年	二二八人
昭和三十二年	二一七人
昭和三十三年	一七〇人

これは受胎調節等の現われと思われませんが、

ここまでお読みになれば今後はどの様なことになるかお気付きになどと思ひます。寿命が延びて子供の数が年々減少するといふ事は将来、年寄りが多くなり働き盛りの者(生産年齢人口)が少なくなり、いかにオートメーションの時代が到来することが予想されても、働き盛りの者の減少は、今後の産業発展を考えたとき、何かしら不安な思ひがして来ます。

以上ほんの一例を申し述べましたが人口の増減、人口の動態はあらゆる面で重大な鍵となつて居るその意味においても人口の基礎調査である国勢調査は重要な調査であります。

何やらまとまりのない文になりましたが国勢調査の詳しい事については九月号に掲載することにしよう。文責掛

湯東村社会福祉協議会は先に規則の改正を行い左の役員を委嘱いたしました。

## 社会福祉

### 協議会役員

- 会長 樋口嘉雄
- 副会長 青川 弘

- 理事
- 赤塚 恕 長沼 長作
  - 笹崎 秀治 丸山 久八
  - 杉山 豊咲 渡辺利輝知
  - 小林金一郎 斎藤隆次郎
  - 小林賢以智 小林九二衛
  - 渡辺 乙蔵 丸山 勝次
  - 丸山 佐吉 田中 正雄
  - 岡本勇一 西村富太郎
  - 高橋 誠一 河村三丞
  - 大隅 耐介 青柳 正喜
  - 大谷忠太郎 笠巻半米門
  - 西村 信吾 平松 武雄
  - 渡辺 寅平 田中 庄一
  - 杉山平太郎 渡辺友一郎
  - 阿部民治郎 梶野賢治郎
  - 坂井 松南 武田六三男
  - 中山 テイ 黒川 藤吉
  - 小林 厳治

早いものでもうお盆の月になりました。最近はずれた日が続いて遠く佐渡の高空に夏雲が浮んで居ります。その下にすくすくと伸びた稲が目にしみるようです。連続豊作の声も聞えて結構なことです。

## あ と が き



農作業も大方終つていわゆる農閑期になりますが、皆様お体に気を付けて、来る取り入れの秋にお備い下さい。

緑蔭の一時「役場たより」を是非読んで戴いて、皆様親まれるようにと心掛けております。